

高校 編

「山月記」

山月記・李陵

中島敦/著 ぎょうせい Y918/マ/12

詩で名をあげることができずに虎になってしまった役人の話。
印象的なフレーズである「臆病な自尊心」と「尊大な羞恥心」。
あなたの中にも「虎」はいるのではないのでしょうか。

「舞姫」

舞姫・うたかたの記

森鷗外/著 角川書店 B913.6/モ

エリート街道まっしぐらだった豊太郎。
踊り子エリスの交流によって、考えが変わっていきます。
最後の結末は、どうすればよかったのでしょうか。史実と比べても面白いですよ。

「こころ」

こころ 坊っちゃん

夏目漱石/著 文春文庫 B913.6/ナ

「先生」と「私」の交流、若い頃の「先生」とその友人「K」の青春、
そして…と大きく三部で書かれています。教科書で全文読むことは難しい
のではないのでしょうか。人間らしい苦悩が好きです。

「畜犬談」

太宰治短編集

太宰治/著 世界文化社 93/夕

「私は、犬については自信がある。
いつの日か、かならず喰いつかれるであろうという自信である。」そんな強烈な一文から始まる「私」と一匹の犬のお話。

「羅生門」

芥川龍之介短編集

芥川龍之介/著 世界文化社 93/ア

羅生門の下で雨やみを待つ下人。盗人になるか飢え死にするか、善と悪の狭間で揺れ動きながら、生きていくために彼はどんな選択を取るのか。一人の男の運命の分かれ目を見てみませんか。

「なめとこ山の熊」

宮沢賢治童話集

宮沢賢治/著 世界文化社 913/ミ

命を奪うことに葛藤を抱く熊撃ちの名人である小十郎と、なめとこ山の熊たちとの切なくも温かい交流と宿命の物語。生きることや命について深く考えさせられます。

コラム

文豪たちのこんな話！

・芥川龍之介

生誕：1892 年 3 月 1 日 死没：1927 年 7 月 24 日(35 歳没)

出身地：東京都

芥川は女性を好きになるとすぐラブレターを送りたがったといひます。家のお手伝いさんの女性に送った手紙では、ひたすらに「かわゆいのだ」と連発。のちの奥さんになる塚本文には「もし文ちゃんがお菓子だったら頭から食べちゃいたい」といった内容の手紙を送っていました。また、芥川はたいへんな風呂嫌いとしても有名です。

・夏目漱石

生誕：1867 年 2 月 9 日 死没：1916 年 12 月 9 日(49 歳没)

出身地：東京都

「吾輩は猫である。名前はまだ無い。」から始まる『吾輩は猫である』でも知られる漱石は実際に生涯で数匹の猫を飼っていました。初代の猫は漱石が当時住んでいた、千駄木の家に迷い込んだ子猫でした。漱石の妻・鏡子は猫嫌いで何度も追い払ったが、「そんなに入ってくるんなら、おいてやったらいいじゃないか」の一言で猫は一家に加わることになりました。明治 41 年に初代の猫は死に、書斎裏の桜の樹の下に埋葬され、翌日に漱石は門下生数名に「猫の死亡通知」とハガキを送りました。ちなみに、この猫にも名前はなかったそうです。

・中原中也

生誕：1907 年 4 月 29 日 死没：1937 年 10 月 22 日(30 歳)

出身地：山口県

中原はお酒を飲むのが好きでしたが、とても酒癖が悪かったそうです。檀一雄の家で酒を飲んでいた中原は、ちょうど居合わせた太宰治に対して「青鯖が空に浮かんだような顔をしやがって」と言ったり、中原に何の花が好きだと聞かれた太宰がモモノハナと答えたところ「チェッ、だからおめえは」と言われ、いい加減な反応をされた太宰は終始泣きそうな顔をしていたといひます。

参考文献

- ・『文豪どうかしてる逸話集』進士素丸 2019.10.25 KADOKAWA
- ・『小説 太宰治』檀一雄 2000.2.16 岩波書店
- ・https://soseki-museum.jp/blog/blog_other/7024/